

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

園名	こどもヶ丘保育園根岸園
活動日時	令和7年8月19日
クラス名(年齢)	きりんぐみ(4歳児)、らいおんぐみ(5歳児)
年間テーマ	色

1.活動テーマ

〈テーマ〉

寒天を作ろう

〈テーマの設定理由(子どもの姿)〉

前回の活動で、ゼリーづくりに興味を示す姿が多く見られた。

ゼリーのように色水がうまく固まらず、子どもから再挑戦したいという意見が多かった。

2.活動スケジュール

- ・16名参加。1グループ3～4人ずつの5グループで行う。
- ・色水遊びで好きな色をつくった後、好きな量のゼラチンや寒天を入れ、タライで冷やす。

3.環境をデザインする




- ・個々がプラカップに自分で作った色水を用意する。今回はゼラチンと寒天を用意し、子どもがどちらかを選択できるようにする。氷を大量に準備する。

4. 探求活動の実践

〈活動内容〉

個々がゼリー用の色水を作る。寒天かゼラチンを選び、道具を使って好きな量を入れる。タライは水のみ、水と氷、水と氷と塩の3つのタライから選んで、プラカップをタライに入れて冷やす。
冷やした後出来たゼリーで感触遊びを楽しむ。

〈活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり〉

子どもの言葉・姿	写真
<p>3種類のタライを前にすると、氷の量を気にする子、塩の有無を気にする子とじっくり考えながら選ぶ姿が見られた。</p> <p>4歳児クラスの女兒と5歳児クラスの男児の二名のみ寒天やゼラチンを大量に入れる。結果、その二名のみ固まった。</p>	
<p>保育者がどうして固まらなかったのか問いかけ、全員でどうすれば固まるのかを話し合う。</p> <p>「凍っちゃったんじゃない?」「冷やしすぎたんじゃない?」「染料(色水)の量が多かったんだと思う。」という意見が出た。色水の量が多かったという意見から、次回は、ゼラチンや寒天の量を増やしてみることになった。</p>	
<p>失敗した色水で遊ぶと、「寒天が溶けた。」と感触の変化を楽しんでいた。</p>	

5.振り返り(振り返りによって得た保育者の気づき)

今回は色水に対しての寒天やゼラチンの量が少なかった為、固まらなかった。子ども達のゼリーを作るという目標は達成できなかったが、次回どうすれば成功するかを子どもたちと話し合う機会をしっかりと設けられたので良かった。

次回は寒天やゼラチンの量を十分に用意し、子ども達が量を調節しながら取り組めるようにしたい。